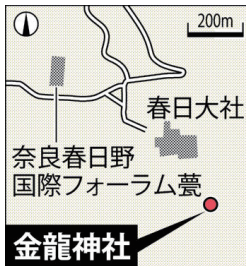




金龍神社 奈良市春日野町で



金龍神社 (奈良市)



金龍神社は春日大社の末社の一つです。境内

の若宮の南方に、寄進された多くの赤い幟旗に囲まれて鎮座しています。

鎌倉時代末期の1333 1(元弘)年、後醍醐天皇が笠置潜幸の途中この場所にあった「櫓屋」で一夜を過ごし、御神鏡

を奉納したのが起り。御神鏡は唐伝来の禽獣葡萄鏡で、国重文に指定され、春日大社国宝殿に収蔵されています。しゅうされていたこと、そして春日龍神信仰の龍と重なって、金龍殿と称されたといわれます。

神社名には、宮中と龍が関わっています。宮中を表す禁裏から禁裏殿と呼ばれたこと、かつて天皇のしるしは龍で、即位の際の御衣に龍が刺神は強く信仰され、世阿

(住所) 奈良市春日野町160 春
(祭神) 金龍大神
(交通) JR、近鉄奈良駅から「春日大社」下車、徒歩約10分

日大社本殿「行きバス終点」
(駐車場) 春日大社駐車場(有料)
(電話) 0742・22・7788

弥は能楽の「春日龍神」を創作しました。

金龍神社は「春日五大龍神めぐり」の第一番参拝所で、運氣や金運を押し上げ発展する力を授けるといわれます。人生の難所をお守りくださる「若宮十五社めぐり」の14番目の神社でもあります。昨年の辰年に合わせ御神前に金の狛龍の阿吽像が奉納されました。

(奈良まほろばソムリエの会会員 大平芳枝)

御神鏡奉納 宮中に由来